

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	医療的ケア2		授業担当者	武富 須賀乃 印
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数（単位数）	30 時間 2 単位	授業の回数
				15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習		使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

安全・適切に実施できるように、必要な知識と技術を習得することを目的とする。

## 【授業全体の内容の概要】

喀痰吸引、経管栄養安全にかつ適切に実施手順を学習する。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

健康状態の把握とその観察方法、清潔行為、感染予防を踏まえ確実に技術を習得する。

- ① 演習は喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管内）→各5回以上
- ② 経管栄養（胃ろう・腸ろう・経鼻）→各5回以上
- ③ 救急蘇生法→1回以上

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新 介護福祉士養成講座

『医療的ケア』 中央法規

## 【単位認定方法】

・定期試験（60点以上）

出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

# 授業内容日程表

(火) 前期

担当：武富 須賀乃

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	喀痰・吸引の振り返りと留意点及び実施手順の確認 喀痰・吸引の振り返りと留意点及び実施手順の確認	
2	6月9日	喀痰・吸引の実施手順 演習（口腔・鼻腔・気管内）	
3	6月9日	演習（口腔・鼻腔・気管内）	
4	6月16日	演習（口腔・鼻腔・気管内）	
5	6月23日	演習（口腔・鼻腔・気管内）	
6	6月30日	演習（口腔・鼻腔・気管内）	
7	6月30日	演習（口腔・鼻腔・気管内）	
8	7月7日	喀痰吸引関係評価	
9	7月7日	経管栄養の振り返りと留意点及び実施手順の確認 実施手順	
10	7月13日	演習（胃ろう・腸ろう・経鼻）	
11	7月21日	演習（胃ろう・腸ろう・経鼻）	
12	7月28日	演習（胃ろう・腸ろう・経鼻）	
13	8月4日	演習演習（胃ろう・腸ろう・経鼻）	
14	8月18日	演習演習（救急蘇生）	
15	9月28日	経管栄養関係評価	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	こころとからだのしくみ 1	授業担当者	武富 須賀乃 印
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位
授業の種類	講義・演習・実技・実習	授業の回数	15 回
		使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能・こころのしくみを知り、加齢によるさまざまな疾患でどのような生活障害が生じるかを理解するとともに、生活障害のメカニズムを知ることにより、高齢者の生活や介護実践との関連性を理解する。

## 【授業全体の内容の概要】

人間の基本的欲求や生命維持のしくみを理解し、身支度や移動、食事、入浴、排泄など介護技術の根拠となる人体の構造や機能を学習する。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

介護サービスを提供する上で『こころとからだのしくみ』が基本であることを理解するとともに、安全確保の重要性を理解する

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新 介護福祉士養成講座

「こころとからだのしくみ」中央法規出版

## 【単位認定方法】

・定期試験 (60点以上)

出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

# 授業内容日程表

(水) 前期

担当：武富 須賀乃

	日付	授業内容	使用物品
1	6月3日	①健康の定義 ②身じたくのしくみ	テキスト・A4用紙
2	6月10日	①人はなぜ病気なるのか ②耳の構造と機能	テキスト・A4用紙
3	6月10日	①人間の欲求 ②口腔の構造と機能	テキスト
4	6月17日	①自己実現と尊厳 ②舌の構造と機能	人体模型
5	6月24日	①こころのしくみの基礎(こころ・脳・認知・学習・記憶等) ②身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響(眼・爪・毛髪等)	人体模型
6	7月1日	①こころのしくみの基礎(こころ・脳・認知・学習・記憶等) ②変化の気づきと対応(眼・耳・毛髪・爪・口腔等)	テキスト・A4用紙
7	7月8日	①こころのしくみと基礎(意欲・動機付け・適応のしくみ) ②身じたくでの医療職との連携のポイント	テキスト
8	7月15日	①からだのしくみを理解する(細胞・遺伝・脳・神経など) ②食事に関連したこころとからだのしくみ(摂食と嚥下運動)	小テスト・テキスト・演習
9	7月22日	①からだのしくみを理解する(脳・神経・感覚器等) ②心身の機能低下が食事に及ぼす影響(加齢・病気等)	テキスト
10	7月29日	①からだのしくみを理解する(内臓の名称・呼吸器・循環器) ②心身の機能低下が食事に及ぼす影響(加齢・病気等)	血液循環の模型
11	8月5日	①からだのしくみを理解する(消化器・泌尿器・骨・筋肉等) ②変化の気づきと対応(食事での観察・医療食との連携等)	テキスト
12	8月19日	①からだのしくみを理解する(神経・生殖器・内分泌等) ②変化の気づきと対応(緊急性・症状・医療職との連携)	小テスト・テキスト・演習
13	8月26日	①からだのしくみを理解する(血液・体液・リンパ・薬等) ②入浴・清潔保持のしくみ(入浴の作用・清潔の効果・皮膚等)	テキスト
14	9月2日	①移動のしくみ(姿勢・良肢位・ポジショニング等) ②入浴・清潔保持のしくみ(発汗・尿路感染等) ★前期試験に伴い復習	テキスト
15	9月9日	前期試験	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	こころとからだのしくみ 2	授業担当者	武富 須賀乃 印
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位
授業の種類	講義・演習・実技・実習	授業の回数	30 回
		使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能・こころのしくみを知り、加齢によるさまざまな疾患でどのような生活障害が生じるかを理解するとともに、生活障害のメカニズムを知ることにより、高齢者の体のしくみや介護実践との関連性を理解する。

## 【授業全体の内容の概要】

人間の基本的欲求や生命維持のしくみを理解し、身支度や移動、食事、入浴、排泄など介護技術の根拠となる人体の構造や機能を学習する。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

介護サービスを提供する上で『こころとからだのしくみ』が基本であることを理解するとともに、安全確保の重要性を理解する

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新 介護福祉士養成講座

「こころとからだのしくみ」中央法規出版

## 【単位認定方法】

・定期試験 (60点以上)

出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(水) 前期

担当：武富 須賀乃

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	①健康の定義 ②身じたくのしくみ	テキスト・A4用紙
2	6月10日	①人はなぜ病気になるのか ②耳の構造と機能	テキスト・A4用紙
3	6月10日	①人間の欲求 ②口腔の構造と機能	テキスト
4	6月17日	①自己実現と尊厳 ②舌の構造と機能	人体模型
5	6月24日	①こころのしくみの基礎(こころ・脳・認知・学習・記憶等) ②身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響(眼・爪・毛髪等)	人体模型
6	7月1日	①こころのしくみの基礎(こころ・脳・認知・学習・記憶等) ②変化の気づきと対応(眼・耳・毛髪・爪・口腔等)	テキスト・A4用紙
7	7月8日	①こころのしくみと基礎(意欲・動機付け・適応のしくみ) ②身じたくでの医療職との連携のポイント	テキスト
8	7月15日	①からだのしくみを理解する(細胞・遺伝・脳・神経など) ②食事に関連したこころとからだのしくみ(摂食と嚥下運動)	小テスト・テキスト・演習
9	7月22日	①からだのしくみを理解する(脳・神経・感覚器等) ②心身の機能低下が食事に及ぼす影響(加齢・病気等)	テキスト
10	7月29日	①からだのしくみを理解する(内臓の名称・呼吸器・循環器) ②心身の機能低下が食事に及ぼす影響(加齢・病気等)	血液循環の模型
11	8月5日	①からだのしくみを理解する(消化器・泌尿器・骨・筋肉等) ②変化の気づきと対応(食事での観察・医療食との連携等)	テキスト
12	8月19日	①からだのしくみを理解する(神経・生殖器・内分泌等) ②変化の気づきと対応(緊急性・症状・医療職との連携)	小テスト・テキスト・演習
13	8月26日	①からだのしくみを理解する(血液・体液・リンパ・薬等) ②入浴・清潔保持のしくみ(入浴の作用・清潔の効果・皮膚等)	テキスト
14	9月2日	①移動のしくみ(姿勢・良肢位・ポジショニング等) ②入浴・清潔保持のしくみ(発汗・尿路感染等) ★前期試験に伴い復習	テキスト
15	9月9日	前期試験	

## 授業内容日程表

(水) 後期

担当：武富 須賀乃

	日付	授 業 内 容	使用物品
16	10月7日	食事のしくみ	ビデオ・テキスト
17	10月14日	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	テキスト
18	10月21日	変化の気づきと対応	小テスト・テキスト
19	10月28日	入浴・清潔保持のしくみ①	ビデオ・テキスト
20	11月4日	入浴・清潔保持のしくみ②	テキスト
21	11月11日	後期試験	小テスト・テキスト
22	11月18日	変化の気づきと対応	ビデオ・テキスト
23	11月25日	排泄のしくみ	テキスト
24	12月2日	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	小テスト・テキスト
25	12月9日	変化の気づきと対応	テキスト
26	12月16日	睡眠のしくみ	テキスト
27	12月23日	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響	小テスト・テキスト
28	1月6日	変化の気づきと対応	テキスト
29	1月13日	後期試験	
30	1月20日	後期試験返却及び解説	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	障害の理解1		授業担当者	川崎 英夫 印
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数
				15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習		使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする

## 【授業全体の内容の概要】

事例、グループワーク、演習を通して様々な障害の医学的理解、生活の理解、介護上のポイント、障害特性の理解を深める。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

様々な障害があることを知り、平等に対応できる考えを習得することができる

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新 介護福祉士養成講座 14  
「障害の理解」 中央法規出版

## 【単位認定方法】

定期試験 (60点以上)  
出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」(履修認定不可)



# 授業内容日程表

(木) 前期

担当：川崎英夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	障害の概念	テキスト
2	6月4日	障害者福祉の基本的理念	テキスト・プリント
3	6月11日	障害のある人の心理	テキスト・プリント
4	6月11日	視覚障害	テキスト・プリント
5	6月18日	聴覚障害	テキスト・プリント
6	6月25日	聴覚・言語障害、重複障害	テキスト・プリント
7	7月2日	肢体不自由(麻痺・拘縮)	テキスト・プリント
8	7月9日	肢体不自由(脳性麻痺)	テキスト・プリント
9	7月16日	中間試験	テキスト・プリント
10	7月30日	脊髄損傷	テキスト・プリント
11	8月6日	知的障害	テキスト・プリント
12	8月20日	精神障害	テキスト・プリント
13	8月27日	前期試験	テキスト・プリント
14	9月3日	解答解説	テキスト・プリント
15	9月10日	発達障害、高次脳機能障害	テキスト・プリント

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護の基本1		授業担当者	高松 浩之 印	
配当年次・時期	1 学年 (前期・後期)	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として障害者支援施設・高齢者施設に長年勤務し、介護職として、対象者との相互理解のための知識や技術を身に付けてきた。

介護福祉士の基本となる理念や生活を維持・継続する為の支援の仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と知識を養うことを目的とする。

## 【授業全体の内容の概要】

介護の成り立ち、役割や機能・また倫理観についての学習を通して、自立した生活を提供出来るための基本的な考え方を理解し、自立支援の重要性を学んでいく。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

基礎的理解として、理念・倫理観・介護福祉の在り方、様々な知識の吸収を狙いとし、文字通りの「介護の基本」の基本知識を理解できる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新・介護福祉士養成講座 3  
介護の基本1

## 【単位認定方法】

定期試験 (60点以上)  
出席日数、授業態度等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。  
80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」  
59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(木) 前期

担当：高松浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	オリエンテーション・授業についてのイメージ	テキスト
2	6月4日	介護の成り立ち①	テキスト・プリント
3	6月11日	介護の成り立ち②	テキスト・プリント
4	6月11日	介護の概念の移り変わり①	テキスト・プリント
5	6月18日	介護の概念の移り変わり②	テキスト・プリント
6	6月25日	介護福祉の基本理念①	テキスト・プリント
7	7月2日	介護福祉の基本理念②	テキスト・プリント
8	7月9日	介護福祉士の役割①	テキスト・プリント
9	7月16日	介護福祉士の役割②	テキスト・プリント
10	7月30日	介護福祉士の関連法規①	テキスト・プリント
11	8月6日	介護福祉士の関連法規②	テキスト・プリント
12	8月20日	介護福祉士に求められる姿勢・考え方①	テキスト・プリント
13	8月27日	介護福祉士に求められる姿勢・考え方②	テキスト・プリント
14	9月3日	前期振り返り	テキスト・プリント
15	9月10日	前期試験	テキスト・プリント

## 授業内容日程表

(木) 後期

担当：高松浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	オリエンテーション	テキスト
2	10月14日	介護福祉士の倫理①	テキスト
3	10月21日	介護福祉士の倫理②	テキスト
4	10月28日	介護福祉士の倫理③	テキスト
5	11月4日	介護福祉士の倫理④	テキスト
6	11月11日	自立に向けた介護福祉のあり方①	テキスト
7	11月18日	自立に向けた介護福祉のあり方②	テキスト
8	11月26日	自立に向けた介護福祉のあり方③	テキスト
9	12月3日	自立に向けた介護福祉のあり方④	テキスト
10	12月10日	ICFの考え方①	テキスト
11	12月17日	ICFの考え方②	テキスト
12	12月24日	ICFの考え方③	テキスト
13	1月7日	自立支援と介護予防①	テキスト
14	1月14日	自立支援と介護予防②	テキスト
15	1月21日	まとめ	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	人間の尊厳と自立		授業担当者	高松 浩之 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数（単位数）	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として障害者支援施設・高齢者施設に長年勤務し、介護職として、利用者の生活支援を行ってきた。

この実務経験を通じ、利用者の尊厳を守り、自立を支援することの重要性への認識を深めてきた。

この認識を基に、人間の尊厳や自立とは何か、その尊厳を保持し自立を支援するとはどういうことかを理解させる授業を展開し、下記を到達目標とする。

## 【授業全体の内容の概要】

- ・利用者の前向きに生きていく姿勢を支える介護専門職の在り方を学ぶ。
- ・尊厳ある利用者支援を考え、虐待や迫害のない社会や人間形成を学ぶ。
- ・何故利用者の尊厳が必要であるのか、介護職の行うべき「利用者に寄り添う支援」を専門職として実践していくためには、どのような知識を吸収すべきかについて学ぶ。
- ・グループワークを通じ、自立支援や利用者の尊厳について学ぶ。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ・利用者の人間としての存在意義や差別ない社会の構築について考察し、尊厳を守る考え方を養う。
- ・介護者・利用者双方の成長・自立や、人間らしさを尊重することの重要性を学ぶ。
- ・関連法や福祉理念を学習することを通じ、尊厳の在り方への理解を深める。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①中央法規 人間の理解（テキスト）
- ②教員作成プリント

## 【単位認定方法】

定期試験（60点以上）

出席日数、授業態度等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(金) 後期

担当：高松浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	オリエンテーション、人間にとっての自立とは	テキスト
2	10月9日	人間の尊厳と自立の意義①	テキスト
3	10月16日	人間の尊厳と自立の意義②	テキスト
4	10月23日	人間の尊厳と自立の意義③	テキスト
5	10月30日	尊厳と自立をめぐる歴史としくみ①	テキスト
6	12月11日	尊厳と自立をめぐる歴史としくみ②	テキスト
7	12月18日	尊厳と自立をめぐる歴史としくみ③	テキスト
8	12月25日	人間の尊厳・自立と生活①	テキスト
9	1月8日	人間の尊厳・自立と生活②	テキスト
10	1月15日	人間の尊厳・自立と生活③	テキスト
11	1月29日	介護における尊厳保持と自立支援の理論①	テキスト
12	2月5日	介護における尊厳保持と自立支援の理論②	テキスト
13	2月12日	介護における尊厳保持と自立支援の実践①	テキスト
14	2月12日	介護における尊厳保持と自立支援の実践②	テキスト
15	2月19日	後期まとめ	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護過程 2		授業担当者	高橋 薫 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

介護過程 1 で学習した内容をふまえ、さらに介護過程を進めていくことにより、介護計画の立案や、実施などの展開ができる思考過程を身につける。

## 【授業全体の内容の概要】

介護過程の応用として事例検討をとおして、根拠に基づいた介護過程の展開について学ぶ。

また、対象者のより良い生活の援助を考える力を養う。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

個人のニーズを確実に把握し、アセスメント～計画に移行する事が出来る。

把握すべき事実の内容を理解し、課題に向けての介護計画を立案できる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

①中央法規 最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 1

②教職員テキスト

## 【単位認定方法】

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の 3 分の 2 以上の出席。

80 点以上の評価点に「A」、70～79 点の評価点に「B」、60～69 点の評価点に「C」

59 点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

( 火 ) 前期

担当：高橋

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	事例検討②	
2	6月9日	課題と目標設定	
3	6月9日	目標の設定と計画の立案	
4	6月30日	事例検討①	
5	6月30日	” ②	
6	7月7日	” ③	
7	7月7日	グループワーク①	
8	7月14日	グループワーク②	
9	7月14日	記録の書き方①	
10	7月21日	” ②	
11	7月21日	” ③	
12	8月4日	事例検討①	
13	8月4日	” ②	
14	8月18日	テスト前	
15	8月25日	前期試験	



# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	生活支援技術Ⅰ		授業担当者	星野 成美 印	
配当年次・時期	1 学年 (前期・後期)	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	(講義) ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

介護福祉士として高齢者福祉施設、訪問介護事業所でリーダーとして勤務した経験に基づいて、介護を必要としている人がどのような状態であっても、生きていることを実感できるような、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活上の障害となっている問題の解決について利用者と一緒に考えることができるように学習する。

## 【授業全体の内容の概要】

演習を通じて、あらゆる介護場面、生活場面において、共通する基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合して適切に実施できるようにする。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉える力と、個別性のある自立／自律や社会参加に向けた生活支援が出来るようになる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①生活支援技術Ⅰ（中央法規）
- ②必要時にプリント配布

## 【単位認定方法】

- ①定期試験 60点以上合格
- ②授業に対する意欲とGWへの参加状況

\*上記の総合内容で評価とする。60点以下は不合格

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(金) 前期

担当：星野成美

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	オリエンテーション	テキスト
2	6月5日	生活支援の基本的考え方	テキスト 各自レポート
3	6月12日	ライフサイクルと生活の豊かさ	テキスト
4	6月19日	ICFの視点と生活支援	テキスト
5	6月26日	利用者を理解するためのICFの視点	テキスト
6	7月3日	住まいの役割と機能	テキスト
7	7月10日	家族と生活空間	テキスト
8	7月17日	快適な室内環境	テキスト
9	7月24日	明るさ・音環境の調整	テキスト
10	7月31日	高齢者・障害者の住まい	テキスト
11	8月7日	安全に暮らす	テキスト
12	8月21日	居住環境の整備における多職種との連携	テキスト
13	8月28日	前期試験	テキスト
14	9月4日	居住環境の整備における多職種の実際	テキスト
15	9月11日	前期まとめ	テキスト

## 授業内容日程表

(月) 後期

担当：星野 成美

	日付	授 業 内 容	使用物品他
1	10月5日	後期オリエンテーション	テキスト
2	10月12日	家庭生活の理解①	テキスト
3	10月19日	家庭生活の理解②	テキスト
4	10月26日	生活設計の考え方①	テキスト
5	11月2日	生活設計の考え方②	テキスト
6	11月9日	食品生活の基本知識	テキスト
7	11月16日	献立の立て方	テキスト
8	11月30日	食品衛生①	テキスト
9	12月7日	食品衛生②	テキスト
10	12月14日	高齢者の身体機能と栄養①	テキスト
11	12月21日	高齢者の身体機能と栄養②	テキスト
12	1月4日	被服生活の基本知識	テキスト
13	1月18日	高齢者の身体機能と被服①	テキスト
14	1月25日	高齢者の身体機能と被服②	テキスト
15	2月1日	買い物の支援・家庭経営と家計管理	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護総合演習1		授業担当者	星野 成美 印	
配当年次・時期	1 学年 (前期) 後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	(講義) 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201・202 教室
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護福祉士、社会人としての心構えを身につけるとともに、授業で学んだ知識が現場でどのように生かされているのかの理解、基礎的な生活支援技術が個別ケアがどのように展開されているのかの理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>各段階の実習目的を理解し、実習先の種別を確認し実習へ行く準備を行う。また、実習後には振り返りを行い、生活支援の中で多職種協働の大切さを確認する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>①現場での介護福祉士の役割を理解し、多職種協働の大切さを理解できる。 ②利用者の一人ひとりの状況を理解した上で、個別ケアの重要性について理解する。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <p>介護総合演習・介護実習 中央法規 必要に応じてプリント配布 介護実習の手引き</p> <p>【単位認定方法】</p> <p>①出欠席数・授業態度・課題提出状況 ②定期試験</p> <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

## 授業内容日程表

( 金 ) 前期

担当：星野成美

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	オリエンテーション (介護総合演習について)	テキスト
2	6月12日	実習先の種別の確認 (特別養護老人ホーム・通所介護)	テキスト
3	6月19日	実習先の種別の確認 (老人保健施設・グループホーム)	テキスト
4	6月26日	介護実習の意義と目的	テキスト
5	7月3日	介護実習の意義と目的	テキスト
6	7月10日	実習記録の書き方	テキスト 介護実習の手引き
7	7月17日	実習記録の書き方	テキスト 介護実習の手引き
8	7月24日	実習記録の書き方	テキスト 介護実習の手引き
9	7月31日	実習について卒業生からのお話	
10	8月7日	実習先へ提出書類作成 (個人票・自己目標)	自宅から施設までの地図
11	8月21日	前期試験	授業時間内に実施
12	9月4日	実習指導者からのお話(成蹊園)	
13	9月11日	実習へ行くにあたっての心構え(記録ファイル作成)	テキスト 介護実習の手引き
14	9月11日	実習 I-2 事前指導	実習ファイル 実習の手引き
15	9月29日	実習 I-2 事後指導	実習ファイル 実習の手引き

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	人間関係とコミュニケーション		授業担当者	高松 浩之 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数（単位数）	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として障害者支援施設・高齢者施設に長年勤務し、介護職として、対象者対応や介護の知識・コミュニケーションスキルを身に付けてきた。介護を必要とする方の理解や援助関係を構築するとともに、他職種協働におけるコミュニケーションの知識や技法などを身につける。

## 【授業全体の内容の概要】

介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割、利用者やその家族との関係づくりなどを理解し、具体的なコミュニケーションの手法や知識を学ぶ。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

対人援助職としてのコミュニケーションのあり方を理解する。  
チームとしてのコミュニケーションのあり方を理解する。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新・介護福祉士養成講座 1  
人間の理解

## 【単位認定方法】

定期試験（60点以上）  
出席日数、授業態度等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。  
80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」  
59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(木) 前期

担当：高松浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	オリエンテーション、介護者・対象者との関係作りとは	テキスト
2	6月4日	人間と人間関係 ①	テキスト・プリント
3	6月11日	人間と人間関係 ②	テキスト・プリント
4	6月11日	対人関係におけるコミュニケーション ①	テキスト・プリント
5	6月18日	対人関係におけるコミュニケーション ②	テキスト・プリント
6	6月25日	対人援助関係とコミュニケーション ①	テキスト・プリント
7	7月2日	対人援助関係とコミュニケーション ②	テキスト・プリント
8	7月9日	組織におけるコミュニケーション	テキスト・プリント
9	7月16日	チームマネジメントの意義 ①	テキスト・プリント
10	7月30日	チームマネジメントの意義 ②	テキスト・プリント
11	8月6日	チームマネジメントの展開 ①	テキスト・プリント
12	8月20日	チームマネジメントの展開 ②	テキスト・プリント
13	8月27日	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	テキスト・プリント
14	9月3日	組織のためのチームマネジメント	テキスト・プリント
15	9月10日	前期まとめ	テキスト・プリント

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	生活支援技術Ⅱ		授業担当者	高橋 薫 印		
配当年次・時期	1 学年	前期・後期	時間数（単位数）	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201・202 教室	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            授業を担当する教員は、介護福祉士として高齢者施設に長年勤務し、介護職として、対象者の生活支援の為に全般的な介護サービス（技術）を提供してきた。この実務経験を通じ獲得した個別支援技術を基に、利用者のニーズに合った、様々な生活支援スキルを身につけさせる授業を展開する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の個別援助に必要な知識と技術について学ぶ。</li> <li>・ ベッドメイキングや体位変換、移乗介助等の生活全般における介護技術を学ぶ。</li> <li>・ 利用者の1人1人の状況に合わせた生活支援の方法について学ぶ。</li> </ul> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者に対して、日々の生活の中で安全で、安楽な支援方法を身につける。</li> <li>・ 対象者の個々の状況に合わせた、自立支援の方法を身につける。</li> <li>・ 介護技術を展開する際に、その支援の根拠について、洞察する力を養う。</li> </ul> <p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①中央法規 最新・生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（テキスト）</li> <li>②教員作成プリント</li> </ol> <p><b>【単位認定方法及び基準】</b></p> <p><b>【成績評価方法】</b>            授業日数の3分の2以上の出席。            80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」            59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>						



# 授業内容日程表

(月) 前期

担当：高橋

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	クラスオリエンテーション	
2	6月1日	実技に向けて	
3	6月8日	生活支援技術とは（生活支援の基本的な考え方）	教科書
4	6月8日	ボディメカニクスと介護の留意点	教科書
5	6月15日	体位変換と安楽な体位	教科書
6	6月15日	休息・睡眠の介護	教科書
7	6月22日	演習)シーツのたたみ方	演習用の服装・靴
8	6月22日	演習)2人ベッドメイキング	〃
9	6月29日	演習)1人ベッドメイキング	〃
10	6月29日	演習)寝たままのベッドメイキング	演習用の服装・靴
11	7月6日	移動の意義と目的	教科書
12	7月6日	〃	〃
13	7月13日	演習)車いすの介助	演習用の服装・靴
14	7月13日	〃	演習用の服装・靴
15	7月20日	ベッドメイキング（実技試験）	演習用の服装・靴
16	7月20日	ベッドメイキング（実技試験）	〃

## 授業内容日程表

( 月 ) 後期

担当：高橋

	日付	授 業 内 容	使用物品
17	7月27日	自立に向けた食事の介護	教科書
18	7月27日	嚥下障害と口腔ケア	〃
19	8月3日	自立に向けた排泄の介護	教科書
20	8月3日	排泄の障害	〃
21	8月17日	自立に向けた身じたくの介護(整容の介護)	教科書
22	8月17日	整容の介助	〃
23	8月24日	身支度の介護	教科書
24	8月24日	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	〃
25	8月31日	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	〃
26	8月31日	前期のまとめ	〃
27	9月7日	前期試験	〃
28	9月7日	前期試験	教科書
29	9月17日	人生の最終段階における介護	教科書
30	9月17日	〃	教科書

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護過程1		授業担当者	高橋 薫 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として高齢者施設や通所介護に長年勤務し、介護職として、利用者の生活支援の根本となる介護支援計画を作成してきた。この実務経験を通じ獲得した計画プランニングスキルを基に、介護過程で必要とされる実践力を身につけさせる授業を展開し、下記の到達目標とする。

## 【授業全体の内容の概要】

- ・ より良い支援を考えていく上で必要となってくるニーズや生きがい作りにつなげるため、対象者のアセスメントから、介護計画の立案・介護の実施・評価等の流れを学ぶ。
- ・ 個別支援の理解を深め、対象者のニーズを把握する意義を学ぶ。
- ・ 介護過程の一連の流れから、支援の必要性を学ぶ。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

個人のニーズを確実に把握し、アセスメント～計画に移行する事が出来る。  
把握すべき事実の内容を理解し、課題に向けての介護計画を立案できる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①中央法規 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程
- ②教職員テキスト

## 【単位認定方法】

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

( 火 ) 前期

担当：高橋

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月2日	事例検討②	
2	6月9日	課題と目標設定	
3	6月9日	目標の設定と計画の立案	
4	6月30日	事例検討①	
5	6月30日	” ②	
6	7月7日	” ③	
7	7月7日	グループワーク①	
8	7月14日	グループワーク②	
9	7月14日	記録の書き方①	
10	7月21日	” ②	
11	7月21日	” ③	
12	8月4日	事例検討①	
13	8月4日	” ②	
14	8月18日	テスト前	
15	8月25日	前期試験	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	発達と老化の理解1		授業担当者	川崎 英夫 印	
配当年次・時期	1 学年	前期・後期	時間数（単位数）	30 時間 2 単位	授業の回数
					15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

成長・発達の過程を理解し、老年期における発達課題や老化に伴うこころとからだの変化による高齢者の日常生活を理解する。高齢者に多い症状や疾患の特徴を理解する。

## 【授業全体の内容の概要】

人間の成長と発達の基礎的理解、人間の発達段階と発達課題、老年期の特徴と発達課題老化に伴うこころとからだの変化と生活、高齢者の健康、保健医療職との連携方法の学習

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

発達に関する理論などを知ることができる。

高齢者に多い疾患の病態や症状を多職種に説明でき、介護専門職として協働できる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新 介護福祉士養成講座 12

発達と老化の理解レジュメ

## 【単位認定方法】

定期試験（60点以上）

出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(木) 前期

担当：川崎英夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	オリエンテーション 人間の成長と発達の基礎的理解、人間の発達段階と発達課題、老年期の特徴と発達課題 老化に伴うこころとからだの変化と生活	レジュメ
2	6月4日	高齢者の健康 疾患に伴う基本的な症状(免疫、炎症、浮腫)	レジュメ
3	6月11日	皮膚疾患(褥瘡、疥癬、白癬、老人性皮膚掻痒症)	レジュメ
4	6月11日	内分泌代謝疾患(糖尿病、脂質異常症、痛風)	レジュメ
5	6月18日	脳神経疾患(脳血管疾患:脳出血)	レジュメ
6	6月25日	脳神経疾患(脳血管疾患:ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症)	レジュメ
7	7月2日	脳神経疾患(脳血管疾患:くも膜下出血)	レジュメ
8	7月9日	脳神経疾患(脳血管疾患:くも膜下出血)	レジュメ
9	7月16日	中間試験 消化器系疾患(消化液について)	レジュメ
10	7月30日	消化器系疾患(逆流性食道炎、感染性胃腸炎、胆嚢炎・胆管炎)	レジュメ
11	8月6日	消化器系疾患(逆流性食道炎、感染性胃腸炎、胆嚢炎・胆管炎)	レジュメ
12	8月20日	前期試験 まとめ	
13	8月27日	前期試験	
14	9月3日	解答解説	
15	9月10日	消化器系疾患(肝硬変)	レジュメ

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	社会の理解 1		授業担当者	高橋 薫 印
配当年次・時期	1 学年 前期 <del>後期</del>	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数
				15 回
授業の種類	講義 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	201 ・ 202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

介護福祉士として介護サービスを提供するにあたり、必要な行政施策の取り組みや法体系・法体制について学ぶ。

## 【授業全体の内容の概要】

私たちの生活と社会福祉及び社会保障の仕組みについて学ぶ。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

私たちの生活と社会福祉のつながり、社会保障制度の概略を理解する。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①中央法規 最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解
- ②教職員テキスト

## 【単位認定方法】

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(金) 後期

担当：高橋 薫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	社会と生活のしくみ：生活の基本機能	テキスト
2	10月8日	〃 ライフスタイルの変化	テキスト
3	10月22日	〃 家族、社会・組織の役割と機能	テキスト
4	10月29日	〃 地域・地域社会	テキスト
5	11月12日	地域共生社会に向けた制度や施策：地域福祉の発展	テキスト
6	12月10日	〃 地域共生社会、地域包括ケア	テキスト
7	12月17日	社会保障制度：基本的な考え方	テキスト
8	12月24日	〃 日本の社会保障制度の発達	テキスト
9	1月7日	〃 日本の社会保障制度の仕組み①	テキスト
10	1月14日	〃 ②	テキスト
11	1月21日	〃 現代社会と社会保障制度	テキスト
12	1月28日	① 高齢者福祉と介護保険制度：高齢者福祉の動向	テキスト
13	2月4日	〃 ②	テキスト
14	2月18日	〃 高齢者保健福祉に関連する法体系	テキスト
15	2月18日	まとめ	テキスト



# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	基礎教養		授業担当者	笹岡 勉 印	
配当年次・時期	1 学年 前期 (後期)	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201 ・ 202 教室
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>記録の意義と目的を理解し、実習記録を書くことができる。 介護現場での声かけの仕方（方法）を身に着けることができる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>記録の意義と目的及び記録を通じた事象の考え方を理解し、様々な場面での声かけ表現の仕方を学んでいく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>記録及び声かけの実践方法を学ぶことができる。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <p>最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 P206～ 中央法規出版</p> <p>【単位認定方法】</p> <p>定期試験 (60点以上) 出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する</p> <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。 80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

# 授業内容日程表

1年（金）後期

担当 笹岡 勉

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	オリエンテーション	ノート
2	10月9日	記録の意義と目的①、コミュニケーションの基本	ノート
3	10月16日	記録の意義と目的②、声かけ表現①	ノート
4	10月23日	物事のとらえ方①、声掛け表現②	ノート
5	10月30日	物事のとらえ方②、声掛け表現③	ノート
6	12月11日	物事のとらえ方③、声掛け表現④	ノート
7	12月18日	物事のとらえ方④、声掛け表現⑤	ノート
8	12月25日	根拠のある記録を書くための注意点①、声掛け表現⑥	ノート
9	1月8日	根拠のある記録を書くための注意点①、声掛け表現⑦	ノート
10	1月15日	根拠のある記録を書くための注意点①、声掛け表現⑧	ノート
11	1月29日	記録を通した事象の考え方①	ノート
12	2月5日	記録を通した事象の考え方②	ノート
13	2月12日	記録を通した事象の考え方③	ノート
14	2月19日	記録を通した事象の考え方④	ノート
15	2月19日	記録を通した事象の考え方⑤	ノート

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護の基本 2		授業担当者	星野 成美 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・ <b>後期</b>	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	<b>講義</b> ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	201 ・ 202 教室	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  生活という概念を理解した上で、介護を必要としている方に対して、「その人らしい」生活とはどういうものかを学び、支援をする専門職としての、基本的考え方を学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  「介護とは何か」さらに、「自立に向けた介護」とは何かを「生活支援」の視点から、学ぶとともに、実際に介護が行うさまざまな生活支援とその意義について理解を深める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>  ①介護の専門職として、その人らしい生活を支援するための視点を習得する。  ②介護観・倫理観・死生観を自分なりの考えを持てるようになる。</p> <p><b>【使用テキスト・参考文献・教材】</b>  最新 介護福祉士養成講座  「介護の基本 1」</p> <p><b>【単位認定方法】</b>  定期試験 (60点以上)  出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する</p> <p><b>【成績評価方法・基準】</b>  授業日数の3分の2以上の出席。  80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」  59点以下の評価点に「D」 (履修認定不可)</p>					

# 授業内容日程表

(水) 後期

担当：星野 成美

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10/7	オリエンテーション	テキスト
2	10/14	介護職の労働環境	テキスト
3	10/21	介護職の労働環境	テキスト
4	10/28	職場環境について(job café 報告会)	テキスト
5	12/7	ICFについて	テキスト
6	12/14	ICFについて	テキスト
7	12/21	ICFについて	テキスト
8	1/6	リハビリテーション	テキスト
9	1/13	リハビリテーション	テキスト
10	1/20	リハビリテーション	テキスト
11	1/27	ターミナルケアについて	
12	2/3	ターミナルケアについて	
13	2/10	ターミナルケアについて	
14	2/17	前期試験	
15	2/24	1年間のまとめ	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護総合演習 2		授業担当者	星野 成美 印	
配当年次・時期	1 学年 前期	後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数
					15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201 ・ 202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

介護福祉士、社会人としての心構えを身につけるとともに、授業で学んだ知識が現場でどのように生かされているのかの理解、基礎的な生活支援技術が個別ケアがどのように展開されているのかの理解する。

## 【授業全体の内容の概要】

各段階の実習目的を理解し、実習先の種別を確認し実習へ行く準備を行う。また、実習後には振り返りを行い、生活支援の中で多職種協働の大切さを確認する。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ①現場での介護福祉士の役割を理解し、多職種協働の大切さを理解できる。
- ②利用者の一人ひとりの状況を理解した上で、個別ケアの重要性について理解する。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

## 【単位認定方法】

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

( 月 ) 後期

担当：星野 成美

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月5日	オリエンテーション (実習の反省を含む)	テキスト
2	10月12日	介護実習の意義と目的	テキスト
3	10月19日	提出書類作成	テキスト
4	10月26日	実習記録の書き方	テキスト 実習ファイル
5	10月30日	実習記録について	テキスト 実習ファイル
6	11月12日	事前指導	テキスト 実習ファイル
7	11月25日	帰校日指導	テキスト 実習ファイル
8	12月7日	帰校日指導	テキスト
9	12月14日	事後指導	テキスト
10	12月21日	実習の振り返り	テキスト
11	1月18日	実習記録の書き方	テキスト
12	1月25日	実習記録の書き方	
13	2月1日	実習記録の書き方	テキスト
14	2月8日	2年生の実習に向けて	
15	2月22日	1年間のまとめ	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護実習 I		授業担当者	星野・高橋・高松 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	296 時間 6 単位	授業の回数	回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	教室	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>地域に密接した施設において、利用者の生活を把握し、利用者本人・家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な知識・技術を習得する事をねらいとする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>様々な利用者への個別ケアを理解し、利用者やその家族、職員とのコミュニケーションを通じ、介護技術の吸収・他職種連携や介護福祉士の役割などを理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①多職種協働の中から介護職の役割を学び、チームケアの重要性を深める</li> <li>②対象者の生活を理解し、地域との関わり・施設の在り方や業務の役割、生活を支える支援を実践的に学ぶ</li> <li>③介護過程の展開を通じて、支援の展開手法を考え、実践的に行う為の知識を身に付ける</li> </ol> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <p>【単位認定方法】</p> <p>実習評価点 (60点以上)</p> <p>出勤日数、実習態度、提出物等、総合的に評価する</p> <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」</p> <p>59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	発達と老化の理解2		授業担当者	川崎 英夫 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・ <b>後期</b>	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	<b>講義</b> ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

成長・発達の過程を理解し、老年期における発達課題や老化に伴うこころとからだの変化による高齢者の日常生活を理解する。高齢者に多い症状や疾患の特徴を理解する。

## 【授業全体の内容の概要】

人間の成長と発達の基礎的理解、人間の発達段階と発達課題、老年期の特徴と発達課題老化に伴うこころとからだの変化と生活、高齢者の健康、保健医療職との連携方法の学習

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

発達に関する理論などを知ることができる。

高齢者に多い疾患の病態や症状を多職種に説明でき、介護専門職として協働できる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新 介護福祉士養成講座 12

発達と老化の理解レジュメ

## 【単位認定方法】

定期試験 (60点以上)

出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）



# 授業内容日程表

(木) 後期

担当：川崎 英夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10/7	腎・泌尿器疾患①	テキスト
2	10/14	腎・泌尿器疾患②	テキスト
3	10/21	腎・泌尿器疾患③	テキスト
4	10/28	循環器疾患①	テキスト
5	12/7	循環器疾患②	テキスト
6	12/14	循環器疾患③	テキスト
7	12/21	中間試験呼吸器疾患①	テキスト
8	1/6	呼吸器疾患②	テキスト
9	1/13	呼吸器疾患③	テキスト
10	1/20	呼吸器疾患④	テキスト
11	1/27	運動器疾患	
12	2/3	内分泌代謝疾患	
13	2/10	感覚器疾患	
14	2/17	悪性新生物 緩和ケア 多職種連携	
15	2/24	前期試験 解答解説	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	認知症の理解 1		授業担当者	高松 浩之 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・ <del>後期</del>	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として障害者支援施設・高齢者施設に長年勤務し、介護職として、認知症対象者との相互理解のための知識や技術を身に付けてきた。

認知症の本質や認知症の人の心理状態や、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境を正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアについて学ぶ。

## 【授業全体の内容の概要】

認知症の定義や歴史、視点の変換について講義や演習を通じて学び、認知症のある人々の心理面を理解し、生活支援の基礎学習を行う。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

認知症とともに生きて行く事とは何か、その人らしさと何かについて把握する事が出来る。  
認知症の人の個別的ケアの知識や、その支援方法を習得する事が出来る。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新・介護福祉士養成講座 13  
認知症の理解

## 【単位認定方法】

定期試験 (60点以上)  
出席日数、授業態度等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(火) 後期

担当：高松 浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	オリエンテーション・認知症の基礎的理解	テキスト
2	10月14日	認知症の基礎的理解 ①認知症とは何か	〃
3	10月21日	〃 ②脳の仕組み	〃
4	10月28日	〃 ③ 認知症の人の心理	〃
5	11月4日	認知症の症状 ①中核症状の理解	〃
6	11月12日	〃 ②生活障害の理解	〃
7	12月2日	〃 ③BPSDの理解:定義	〃
8	12月9日	〃 ④BPSDの誘因	〃
9	12月16日	〃 ⑤主要なBPSD	〃
10	12月23日	〃 ⑥認知症の診断と重症度	〃
11	1月6日	〃 ⑦認知症の原因疾患と症状・生活障害①	〃
12	1月13日	〃 ⑧認知症の原因疾患と症状・生活障害②	〃
13	1月19日	〃 ⑨認知症の診断と治療	〃
14	1月27日	障害を抱えて生きる事への支援 ①認知症ケアの歴史	〃
15	2月3日	〃 ②認知症ケアの歴史	〃

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	障害の理解2		授業担当者	川崎 英夫 印	
配当年次・時期	1 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。

## 【授業全体の内容の概要】

事例、グループワーク、演習を通して様々な障害の医学的理解、生活の理解、介護上のポイント、障害特性の理解を深める。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

様々な障害があることを知り、平等に対応できる考えを習得することができる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新 介護福祉士養成講座 14  
「障害の理解」 中央法規出版

## 【単位認定方法】

定期試験 (60点以上)  
出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。  
80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」  
59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(金) 後期

担当：川崎 英夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月8日	障害がある人の生活の理解③ 心臓機能障害	
2	10月15日	障害がある人の生活の理解③ 腎機能障害	
3	10月22日	障害がある人の生活の理解③ 呼吸機能障害	
4	10月29日	障害がある人の生活の理解③ 膀胱・直腸障害	
5	11月12日	障害がある人の生活の理解③ 肝機能障害	
6	12月3日	障害がある人の生活の理解③ ヒト免疫不全ウイルス免疫機能障害	
7	12月9日	障害がある人の生活の理解③ 難病（運動神経）	
8	12月16日	中間試験	
9	12月23日	障害のある人の生活の理解③ 難病（内臓・皮膚・血管系）	
10	1月7日	障害のある人に対する介護① 介護の基本視点	
11	1月14日	障害がある人に対する介護① 虐待・権利擁護	
12	1月21日	障害者総合支援法	
13	1月28日	社会資源の利用と開発家族の支援・連携と協働	
14	2月4日	後期試験	
15	2月11日	振り返り	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	医療的ケア 1		授業担当者	武富 須賀乃 印	
配当年次・時期	1 学年 前期(後期)	時間数(単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	201・202 教室

## 【授業の目的・ねらい】

医療職との連携のもとで喀痰吸引、経管栄養の正確な知識と正確な技術を安全・適切に実施できるように習得する。

## 【授業全体の内容の概要】

- ①制度や法制度について学び、尊厳や倫理について理解する。
- ②講義・演習を通してチームの一員としての医療的ケアの実施を目指す。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ①実施の根拠が理解できる。
- ②必要物品の準備ができることを前提に安全・確実に行えるように知識・技術を身につける
- ③利用者の生活に必要な支援であることを理解できる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新 介護福祉士養成講座  
『医療的ケア』 中央法規

## 【単位認定方法】

- ・定期試験 (60点以上)
- 出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(水) 後期

担当：武富 須賀乃

No.	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	清潔保持と感染予防 ①正しい手洗いの仕方の練習 ②うがいの仕方を説明できる	ビデオ・テキスト
2	10月14日	職員の感染予防 ①職員自身の健康管理について理解できる ②感染予防としての手袋やガウンの装着方法について	ビデオ・テキスト (再学習)
3	10月21日	身体・精神の健康 ①バイタルサインを説明できる ②バイタルサインの正常値を説明できる	ビデオ・テキスト
4	10月28日	急変状態について理解ができる ①急変時の対応と事前準備を説明できる ②急変時の報告について説明できる	ビデオ・テキスト
5	11月4日	喀痰吸引で使用する器具・機材としそのしくみ 清潔保持について	ビデオ・テキスト
6	11月11日	吸引の必要物品が言える 吸引機・器具・器材のしくみを説明することができる	ビデオ・テキスト
7	11月18日	吸引の技術と留意点（吸引前と吸引後） 吸引を行う利用者の状態観察	ビデオ・テキスト
8	11月25日	人工呼吸器装着利用者の説明および吸引時の留意点	ビデオ・テキスト
9	12月2日	喀痰吸引に伴うケア ①痰を出しやすくする体位	ビデオ・テキスト
10	12月9日	喀痰吸引により生じる危険や事後の安全確認	ビデオ・テキスト
11	12月16日	呼吸のしくみとはたらき ①呼吸維持の必要性を説明できる ②呼吸のしくみや換気に関係する機関の名称をいえる	ビデオ・テキスト
12	12月23日	いつもと違う呼吸状態 ①いつもと違う呼吸状態とは ②呼吸の苦しさがもたらす苦痛と障害について	ビデオ・テキスト
13	1月6日	喀痰吸引とは ①痰を生じて排出するしくみについて ②痰の貯留を示す状態について ③喀痰吸引が必要な状態について	ビデオ・テキスト
14	1月13日	救急蘇生について	ビデオ・テキスト
15	1月20日	後期テスト	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	情報処理		授業担当者	重田 伸一 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	203・基礎医学実習室 教室

## 【授業の目的・ねらい】

著作権法の理解、文書作成・表計算・プレゼンテーション技術の習得

## 【授業全体の内容の概要】

- ・ 将来、企業などのエンドユーザや介護施設・病院等で、なくてはならない知識と技術である。
- ・ 特に著作権法の学習はネットワーク社会での被害者・加害者にならないためにも必要なスキルを習得する。
- ・ また、文書作成・表計算・プレゼンテーション技術の習得をする。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

著作権法の理解、文書作成・表計算・プレゼンテーション技術の習得

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

はじめての著作権講座  
テキスト

## 【単位認定方法】

- ・ 定期試験 (60点以上) ・ 出席8割と課題提出 (課題採点による)
- 出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」 (履修認定不可)



## 授業内容日程表

2年（水）前期

担当 重田 伸一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	ガイダンス	
2	6月10日	文書作成	
3	6月17日	文書作成	
4	6月24日	文書作成	
5	7月1日	文書作成	
6	7/1~7/10	文書作成（授業内課題テスト）	
7	7/1~7/10	著作権法	
8	7/1~7/10	著作権法	
9	7月8日	著作権法	
10	7/1~7/10	著作権法	
11	7月15日	著作権法	
12	7月22日	著作権法	
13	7月29日	K2前期試験	
14	8月5日	著作権法 テスト返し	
15	8月19日	メディアリテラシー	

# 授業内容日程表

2年（水）後期

担当 重田 伸一

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	表計算	
2	10月14日	表計算	
3	10月21日	表計算(国際福祉機器展)	
4	10月28日	表計算	
5	11月4日	表計算	
6	11月11日	表計算	
7	11月18日	表計算	
8	11月25日	表計算	
9	12月2日	表計算	
10	12月9日	表計算(授業内課題テスト)	
11	12月16日	プレゼンテーション	
12	12月23日	プレゼンテーション	
13	1月6日	プレゼンテーション	
14	1月13日	プレゼンテーション	
15	1月27日	プレゼンテーション(課題提出)	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ		授業担当者	高松 浩之 印		
配当年次・時期	2 学年	前期・後期	時間数（単位数）	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	203 教室	

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として障害者支援施設・高齢者施設に長年勤務し、介護職として、対象者との相互理解のためのコミュニケーション技術を身に付けてきた。

この実務経験を通じ獲得したコミュニケーションのスキルを基に、様々な状況に応じたコミュニケーション技術を身につけさせる授業を展開する事を目的とする。

## 【授業全体の内容の概要】

- ・利用者及び利用者家族、また職員間で行ってきたコミュニケーションの展開方法を学ぶ。
- ・コミュニケーションの手法や展開など、事例などを通して学ぶ。
- ・コミュニケーションが困難な対象者への具体的な支援の知識を学ぶ。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ・コミュニケーションを通して、利用者への理解を広げていく。
- ・全ての利用者とコミュニケーションを行っていく為の手法を身につける。
- ・コミュニケーションスキルを向上し、円滑な対人援助の形成を行っていく。
- ・対象者に関わる介護者の技術と知識の向上を図る。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①中央法規 コミュニケーション技術Ⅱ（テキスト）
- ②教員作成プリント

## 【単位認定方法】

定期試験（60点以上）

出席日数、授業態度、グループワーク等

総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(月) 前期

担当：高松浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	オリエンテーション、介護におけるコミュニケーションの基本 ①	テキスト
2	6月1日	介護におけるコミュニケーションの基本 ②	テキスト
3	6月8日	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本技術 ①	テキスト
4	6月8日	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本技術 ②	テキスト
5	6月15日	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本技術 ③	テキスト
6	6月22日	利用者の特性に応じたコミュニケーション ①	テキスト
7	6月29日	利用者の特性に応じたコミュニケーション ②	テキスト
8	7月6日	利用者の特性に応じたコミュニケーション ③	テキスト
9	7月13日	利用者の特性に応じたコミュニケーション ④	テキスト
10	7月20日	介護におけるチームのコミュニケーション ①	テキスト
11	7月27日	介護におけるチームのコミュニケーション ②	テキスト
12	8月3日	介護におけるチームのコミュニケーション ③	テキスト
13	8月3日	まとめ ①	テキスト
14	8月17日	まとめ ②	テキスト
15	8月17日	前期試験対策	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護の基本3		授業担当者	高松 浩之 印
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数
				30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として障害者支援施設・高齢者施設に長年勤務し、介護職として、介護の知識と技術・並びに様々な応用的なスキルを身に付けてきた。介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護福祉士の理念や自立ある生活を継続する為の支援の仕組みを理解し、介護福祉全般の知識向上を目的とする。

## 【授業全体の内容の概要】

公的支援や地域連携・安全確保や事故への対応といったリスクマネジメントの視点、また、多職種協働による介護を実践し、介護福祉を支える機能や役割を学んでいく。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

介護を必要とする人の理解を深め、介護福祉士としての基本的知識を学習する事で理解でき、実践での業務に対してのイメージが高められる様になる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新・介護福祉士養成講座 4  
介護の基本Ⅱ

## 【単位認定方法】

定期試験 (60点以上)  
出席日数、授業態度等を総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。  
80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」  
59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(金) 前期

担当：高松浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	オリエンテーション・授業についてのイメージ	テキスト
2	6月5日	生活の理解	テキスト・プリント
3	6月12日	介護を必要とする人たちの暮らしを考える	テキスト・プリント
4	6月12日	生活ニーズの理解	テキスト・プリント
5	6月19日	生活支援とその理解	テキスト・プリント
6	6月26日	生活を支えるしくみ①	テキスト・プリント
7	7月3日	生活を支えるしくみ②	テキスト・プリント
8	7月10日	地域連携について	テキスト・プリント
9	7月10日	介護における安全の確保①	テキスト・プリント
10	7月17日	介護における安全の確保②	テキスト・プリント
11	7月24日	リスクマネジメントについて	テキスト・プリント
12	7月31日	感染症対策①	テキスト・プリント
13	8月1日	感染症対策②	テキスト・プリント
14	8月7日	前期振り返り	テキスト・プリント
15	8月21日	前期試験	テキスト・プリント

## 授業内容日程表

(水) 後期

担当：高松浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	介護におけるリスクマネジメント⑥	テキスト
2	10月14日	介護におけるリスクマネジメント⑦	テキスト
3	10月21日	感染管理のための方策①	テキスト
4	10月28日	感染管理のための方策②	テキスト
5	11月4日	介護に携わる人の健康管理①	テキスト
6	11月11日	介護に携わる人の健康管理②	テキスト
7	11月18日	介護に携わる人の健康管理③	テキスト
8	11月25日	介護に携わる人の健康管理④	テキスト
9	12月2日	介護に携わる人の健康⑤	テキスト
10	12月9日	後期まとめ	テキスト
11	12月16日	後期試験	テキスト
12	12月23日	安心して働ける健康づくり①	テキスト
13	1月6日	安心して働ける健康づくり②	テキスト
14	1月13日	安心して働ける健康づくり③	テキスト
15	1月20日	安心して働ける健康づくり④	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	レクリエーション支援法		授業担当者	高橋 薫 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数（単位数）	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

介護福祉士としてレクリエーションの意義を理解し、支援の方法や技術を習得し具体的な事例や利用者のニーズに沿って、レクリエーションが展開できる

## 【授業全体の内容の概要】

レクリエーションの歴史や意義を把握し、利用者の生活のQOLを高める視点で生活環境の充実を図る支援方法を理解する。さらに個別ケアの視点で余暇活動を考える

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

レクリエーションの必要性を理解することができ、具体的にレクリエーション活動を提供し実践する事ができる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①教員テキスト
- ②日本レクリエーション協会・テキスト

## 【単位認定方法】

定期試験（60点以上）  
出席日数、授業態度、グループワーク等

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。  
80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」  
59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）



## 授業内容日程表

( 月 ) 前期

担当：高橋 薫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	オリエンテーション・交流会について	教科書
2	6月8日	1年生との交流会準備①(グループ作り)	
3	6月15日	1年生との交流会準備②(企画書作成)	
4	6月22日	交流会実施	
5	6月29日	交流会の見直し	
6	5月18日	信頼関係づくり(コミュニケーション)	
7	5月25日	集団作り	
8	7月6日	レクリエーションの支援方法(ホスピタリティ)	
9	7月13日	アイスブレイキング	
10	7月20日	エーパイとは	
11	7月27日	レクリエーション指導の実際①	
12	8月3日	レクリエーション指導の実際②	
13	8月17日	前期試験のまとめ	
14	8月24日	前期試験	
15	8月31日	レクリエーションの計画作成	

## 授業内容日程表

( 月 ) 後期

担当：高橋 薫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月5日	レクリエーション・グループワーク①	テキスト
2	10月12日	" ②	テキスト
3	10月19日	施設との打ち合わせ	テキスト
4	10月26日	レクリエーション・グループワーク③	テキスト
5	11月2日	施設:グループワーク発表①	テキスト
6	11月9日	" ②	テキスト
7	11月16日	" ③	テキスト
8	11月30日	反省会と課題	テキスト
9	12月7日	クラフト①:クリスマスカード作り	テキスト
10	12月14日	クラフト②	テキスト
11	12月21日	クラフト④	テキスト
12	1月4日	" ⑤	テキスト
13	1月18日	" ⑥	テキスト
14	1月25日	前期まとめ	テキスト
15	2月1日	試験	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	コミュニケーション技術1		授業担当者	笹岡 勉 印	
配当年次・時期	1 学年 前期(後期)	時間数(単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	201・202 教室
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解し、利用者や家族・あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身に付ける事を目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            介護福祉士としてのコミュニケーション技術の確立</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーション能力が身についていることを目的とする。</p> <p><b>【使用テキスト・参考文献・教材】</b>            最新 介護福祉士養成講座 5            「コミュニケーション技術」 中央法規出版</p> <p><b>【単位認定方法】</b>            定期試験 (60点以上)            出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する</p> <p><b>【成績評価方法・基準】</b>            授業日数の3分の2以上の出席。            80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」            59点以下の評価点に「D」(履修認定不可)</p>					

## 授業内容日程表

(水) 後期

担当：笹岡 勉

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	オリエンテーション、コミュニケーションとは	テキスト
2	10月14日	介護におけるコミュニケーションの基本①	テキスト
3	10月21日	介護におけるコミュニケーションの基本②	テキスト
4	10月28日	話を聞く技法、感情を察する技法①	テキスト
5	11月4日	話を聞く技法、感情を察する技法②	テキスト
6	11月11日	納得と同意を得る技法、質問の技法①	テキスト
7	11月18日	納得と同意を得る技法、質問の技法②	テキスト
8	11月26日	相談、援助、指導の技法①	テキスト
9	12月2日	相談、援助、指導の技法②	テキスト
10	12月9日	利用者の意欲を引き出す技法	テキスト
11	12月16日	利用者、家族の意向を調整する技法①	テキスト
12	12月23日	利用者、家族の意向を調整する技法②	テキスト
13	1月6日	様々な場面でのコミュニケーション技法①	テキスト
14	1月13日	様々な場面でのコミュニケーション技法②	テキスト
15	1月27日	後期まとめ	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護総合演習 3		授業担当者	星野 成美 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

介護福祉士として、また社会人としての心構えを身につけるとともに、介護観・職業倫理を構築していく。

## 【授業全体の内容の概要】

グループワークや演習から、実習 I の振り返りをし、反省から自分自身の課題を客観的に捉え今後の実習へとつなげていく。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ①実習の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、介護福祉士として次の実習に向け、自身の課題を明確化できる。
- ②根拠に基づいた介護過程の展開をすることができる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

介護総合演習・介護実習 中央法規  
必要に応じてプリント配布

## 【単位認定方法】

- ①出欠席数・授業態度・課題提出状況

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(水) 前期

担当：星野成美

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	オリエンテーション・Ⅰ－Ⅲ段階実習の反省	
2	6月10日	実習施設の種類と役割	テキスト
3	6月17日	実習書類の作成	テキスト
4	6月24日	実習記録について	テキスト 実習の手引き
5	7月1日	実習目標の作成	実習ファイル 実習の手引き
6	7月8日	Ⅱ段階実習に向けての心構え	実習ファイル
7	7月14日	Ⅱ段階実習に向けての心構え	実習ファイル
8	7月21日	実習書類の作成	実習ファイル
9	7月28日	実習記録について	テキスト 実習ファイル
10	8月5日	定期試験	
11	8月19日	前期まとめ	
12	8月21日	事前指導	実習の手引き 実習ファイル
13	9月4日	帰校日	実習ファイル
14	9月17日	帰校日	実習ファイル
15	9月29日	事後指導	実習ファイル

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護の応用1		授業担当者	笹岡 勉 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

手話や点字を学習することで、コミュニケーションツールの幅を広げると共に聴覚障害者・視覚障害者への理解を深めることができる。

## 【授業全体の内容の概要】

手話・点字の演習

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

手話・点字の基本的動作を習得することができる。  
聴覚障害者・視覚障害者の理解を深めることができる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

テキスト「聴さんと学ぼう」

## 【単位認定方法】

定期試験（60点以上）  
出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。  
80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」  
59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(木) 前期

担当：笹岡

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	介護福祉士国家試験対策	プリント
2	6月11日	介護福祉士国家試験対策	プリント
3	6月11日	介護福祉士国家試験対策	プリント
4	6月18日	介護福祉士国家試験対策	プリント
5	6月18日	介護福祉士国家試験対策	プリント
6	6月25日	介護福祉士国家試験対策	プリント
7	7月2日	介護福祉士国家試験対策	プリント
8	7月2日	介護福祉士国家試験対策	プリント
9	7月9日	介護福祉士国家試験対策	プリント
10	7月16日	介護福祉士国家試験対策	プリント
11	7月16日	介護福祉士国家試験対策	プリント
12	7月30日	介護福祉士国家試験対策	プリント
13	7月30日	介護福祉士国家試験対策	プリント
14	8月6日	介護福祉士国家試験対策	プリント
15	8月20日	介護福祉士国家試験対策	プリント



# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	国家試験特別講義 1		授業担当者	高松 浩之 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として障害者支援施設・高齢者施設に長年勤務し、介護職として、対象者対応や介護の知識を身に付けてきた。

国家試験問題を繰り返し学習することにより、介護の基礎知識を身につける。

国家試験を意識する。

## 【授業全体の内容の概要】

国家試験の過去問題を学習し、基礎知識を広げ、各領域の知識習得を目指す。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

基礎知識を習得することによって、根拠を持った介護が出来るようになる。

国家資格のプロとして、より多くの知識を持つことが出来る。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

各種国家試験過去問題

介護福祉士国家試験問題集 等

## 【単位認定方法】

定期試験 (60点以上)

出席日数、授業態度等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」 (履修認定不可)

# 授業内容日程表

(月) 前期

担当：高松浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月1日	オリエンテーション・介護の領域①	プリント
2	6月1日	人間と社会の領域①	プリント
3	6月8日	こころとからだのしくみの領域①	プリント
4	6月8日	介護の領域②	プリント
5	6月15日	人間と社会の領域②	プリント
6	6月22日	こころとからだのしくみの領域②	プリント
7	6月29日	介護の領域③	プリント
8	7月6日	人間と社会の領域③	プリント
9	7月13日	こころとからだのしくみの領域③	プリント
10	7月20日	総合問題①	プリント
11	7月20日	総合問題②	プリント
12	7月27日	総合問題③	プリント
13	8月3日	介護の領域④	プリント
14	8月3日	人間と社会の領域④	プリント
15	8月17日	こころとからだのしくみの領域④	プリント

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	認知症の理解 2		授業担当者	高橋 薫 印	
配当年次・時期	2 学年 (前期)・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	(講義) ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	203 教室
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>認知症のステージに応じた支援や、その生活する場の違いを把握し、介護職としての関わり割り方について学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>認知症の定義や歴史、視点の変換について講義や演習を通じて学び、認知症のある人々の心理面を理解し、生活支援の基礎学習を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>認知症とともに生きていくとは何か、その人らしさをは何かについて把握することができる。 認知症の人の個別的ケアの知識や、支援方法を習得することができる。</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <p>中央法規 最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解</p> <p>【単位認定方法】</p> <p>①出欠席状況 ②授業態度・課題提出状況 ③定期試験の結果</p> <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。</p> <p>80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

## 授業内容日程表

(水) 前期

担当：高橋薫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月5日	障害を抱えて生きることの支援：認知症ケアの理解①	教科書
2	6月12日	〃 認知症ケアの理解②	教科書
3	6月19日	〃 当事者の視点から見えるもの	教科書
4	6月26日	認知症ケアの実際：パーソン・センタード・ケア	教科書
5	7月3日	〃 認知症の人の特性を踏まえたアセスメントツール	教科書
6	7月10日	〃 認知症の人とのコミュニケーション	教科書
7	7月17日	〃 認知症の人へのケア	教科書
8	7月24日	〃 認知症の人々への様々へのアプローチ	教科書
9	7月31日	〃 認知症の人の終末期医療と介護	教科書
10	8月1日	〃 環境づくり	教科書
11	8月7日	介護者支援：家族への支援	教科書
12	8月21日	〃 介護職への支援	教科書
13	8月21日	前期テスト	教科書
14	9月4日	認知症の人の地域支援：制度、サービス、機関	教科書
15	9月4日	地域連携と協働	教科書

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護過程 3		授業担当者	星野 成美 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	60 時間 4 単位	授業の回数	30 回
授業の種類	(講義) 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	203 教室	

## 【授業の目的・ねらい】

授業や実習で学んだ知識と技術を統合し、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法を学ぶ。他職種との連携における介護福祉士の役割を理解する。

## 【授業全体の内容の概要】

1年生で学んだ介護過程についての復習と事例を元にグループワーク等で介護過程の振り返りを行う。また実習Ⅱで展開した介護過程を振り返り、文章へまとめ学習発表会に参加する。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

介護過程を知識や技術をもとに、理論的に展開できるようになる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

- ①介護過程(中央法規)
- ②必要に応じてプリント配布

## 【単位認定方法】

- ①出欠席状況
- ②授業態度・課題提出状況
- ③定期試験の結果

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(水) 前期

担当：星野

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月3日	介護過程の復習①：アセスメント・情報収集	テキスト
2	6月3日	事例検討	テキスト
3	6月10日	介護過程の復習②：情報の解釈・統合化	テキスト
4	6月10日	事例検討	テキスト
5	6月17日	介護過程の復習③：援助の内容	テキスト
6	6月27日	介護過程：実践の記録の書き方	テキスト
7	7月1日	介護過程：評価について	テキスト 1-3段階の介護過程 のコピー
8	7月8日	事例検討	テキスト 1-3段階の介護過程 のコピー
9	7月15日	事例検討	テキスト 1-3段階の介護過程 のコピー
10	7月15日	事例検討	テキスト 1-3段階の介護過程 のコピー
11	7月22日	事例検討	テキスト
12	7月22日	事例検討	テキスト
13	7月29日	定期試験	
14	8月5日	記録の書き方	テキスト
15	8月19日	前期のまとめ	テキスト

## 授業内容日程表

(水) 後期

担当：星野

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月7日	後期オリエンテーション	テキスト
2	10月14日	実習の振り返り	テキスト
3	10月21日	事例検討①	介護過程コピー
4	10月28日	事例検討②	介護過程コピー
5	11月4日	事例検討③	介護過程コピー
6	11月11日	実技試験(2年間のまとめ)	テキスト
7	11月18日	実技試験(2年間のまとめ)	テキスト
8	11月25日	事例検討④	介護過程コピー
9	12月2日	試験対策	プリント
10	12月9日	定期試験	プリント
11	12月16日	演習①	テキスト
12	12月23日	演習②	テキスト
13	1月6日	演習③	テキスト
14	1月13日	演習④	テキスト
15	1月20日	1年間の振り返り	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	生活支援技術Ⅲ		授業担当者	川崎 英夫 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数（単位数）	120 時間 8 単位	授業の回数	60 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

障害を通じて、病態理解と生活を支えるための基本的技術を習得する。  
保健医療職の役割と協働・連携について理解する。

## 【授業全体の内容の概要】

主に「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」「障害の理解」「生活支援技術」の復習を行いながら演習を行う。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

症状・所見から病態を説明し、それに合わせた対応を行い、保健医療職に報告・連絡・相談が出来るスキルを養う。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

最新 介護福祉士養成講座 8  
「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版

## 【単位認定方法】

定期試験（60点以上）  
出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。  
80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」  
59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）



## 授業内容日程表

(木) 前期

担当：川崎英夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	6月4日	オリエンテーション シーツ交換 (実技確認テスト)	ベッド、リネン類
2	6月4日	移動・移乗 (実技確認テスト) 一部介助、全介助	ベッド、リネン類、 車いす
3	6月11日	更衣交換 (実技確認テスト) 座位、臥床状態	ベッド、リネン類、 イス、衣類上下
4	6月11日	排泄介助 (実技確認テスト) パット交換、おむつ交換	ベッド、リネン類、 衣類上下、PT、おむつ
5	6月18日	看取りの介護 (エンゼルケア) 清拭 (実技確認テスト)	ベッド、リネン類、 清拭 タオル、エンゼルセット
6	6月25日	運動機能障害に応じた介護 スライディングシート・ボード、 床からの立ち上がり、プッシュアップ	スライディングシート・ボード、車いす
7	7月2日	視覚障害に応じた介護	白杖、アイマスク
8	7月9日	心臓機能障害に応じた介護 重症心身障害に応じた介護	
9	7月16日	腎・膀胱機能障害に応じた介護	膀胱留置カテーテル
10	7月30日	直腸機能障害に応じた介護	ストマケア、疑似便
11	8月6日	肝機能障害に応じた介護	点滴 着衣交換
12	8月20日	課題	
13	8月27日	前期試験	
14	9月3日	課題	
15	9月10日	事後指導	

## 授業内容日程表

(木) 後期

担当：川崎 英夫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月8日	国家試験対策	レジュメ
2	10月22日	国家試験対策	レジュメ
3	10月29日	国家試験対策	レジュメ
4	11月5日	国家試験対策	レジュメ
5	11月12日	国家試験対策	レジュメ
6	11月19日	国家試験対策	レジュメ
7	11月26日	国家試験対策	レジュメ
8	12月3日	中間試験	
9	12月10日	国家試験対策	レジュメ
10	12月17日	国家試験対策	レジュメ
11	12月24日	後期試験	
12	1月 7日	国家試験対策	レジュメ
13	1月14日	国家試験対策	レジュメ
14	1月21日	国家試験対策	レジュメ
15	1月28日	ボディメンテナンスなど	動ける服装

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	社会の理解 2		授業担当者	高松 浩之 印	
配当年次・時期	2 学年 前期	後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数
					15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として障害者支援施設・高齢者施設に長年勤務し、介護職として、対象者対応や介護の知識を身に付けてきた。

授業の中で、介護保険制度に関連する社会状況、制度を理解する。

## 【授業全体の内容の概要】

前年度の引き続き「社会の理解・第5版」第3章、4章について学び、知識を広げる。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

介護保険制度の関する社会状況、制度を理解する。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

新・介護福祉士養成講座 2

「社会の制度の理解」中央法規

## 【単位認定方法】

定期試験 (60点以上)

出席日数、授業態度、グループワーク等

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

(月) 後期

担当：高松 浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	9月30日	現代社会と社会保障制度	テキスト
2	10月7日	介護保険創設の目的	テキスト
3	10月14日	介護保険制度の仕組み	テキスト
4	10月21日	介護保険制度にかかわる組織と役割	テキスト
5	11月18日	介護保険制度における専門職の役割	テキスト
6	11月25日	介護保険制度改正の流れと地域包括ケア	テキスト
7	12月2日	障害者の自立	テキスト
8	12月9日	障害者自立支援制度の目的と動向	テキスト
9	12月14日	後期試験	テキスト
10	12月16日	障害者自立支援制度の仕組み	テキスト
11	12月23日	障害者自立支援制度に関する組織とその役割	テキスト
12	1月6日	障害者福祉施策の行方	テキスト
13	1月20日	人々の権利を擁護する諸制度	テキスト
14	1月27日	医療に関する法と諸施策	テキスト
15	2月3日	生活を支える諸制度のあらまし	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護の応用2		授業担当者	笹岡 勉 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・ <u>後期</u>	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	203 教室	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            介護福祉士国家試験に向けて、基礎知識の定着及び傾向と対策について学ぶことができる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            介護福祉士国家試験の領域別問題及び過去問題、予想問題等を使用しての問題演習を行う。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            介護福祉士国家試験合格ライン突破を到達目標とする。</p> <p><b>【使用テキスト・参考文献・教材】</b>            介護福祉士国家試験過去問題（中央法規）            介護福祉士国家試験予想問題（中央法規）</p> <p><b>【単位認定方法】</b>            定期試験（60点以上）            出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する</p> <p><b>【成績評価方法・基準】</b>            授業日数の3分の2以上の出席。            80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」            59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

## 授業内容日程表

(木) 後期

担当：笹岡 勉

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月1日	社会の理解	プリント
2	10月8日	こころとからだのしくみ	プリント
3	10月22日	障害の理解	プリント
4	10月29日	発達と老化の理解・介護過程	プリント
5	11月5日	介護の基本・人間の尊厳と自立	プリント
6	11月12日	社会の理解	プリント
7	11月19日	生活支援技術	プリント
8	11月26日	イーラーニングにおける国試対策	プリント
9	12月3日	人間関係とコミュニケーション・コミュニケーション技術・認知症の理解	プリント
10	12月10日	医療的ケア	プリント
11	12月17日	総合問題	プリント
12	12月24日	介護福祉士国家試験過去問題（午前問題）	プリント
13	1月7日	介護福祉士国家試験過去問題（午後問題）	プリント
14	1月14日	介護福祉士国家試験予想問題（午前問題）	プリント
15	1月21日	介護福祉士国家試験予想問題（午後問題）	プリント

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護の基本 4		授業担当者	高橋 薫 印	
配当年次・時期	2 学年 前期(後期)	時間数 (単位数)	30 時間 2単位	授業の回数	15 回
授業の種類	(講義) ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

生活という概念を理解した上で、介護を必要としている方に対して、「その人らしい」生活とはどういうものかを学び、支援をする専門職としての、基本的考え方を学ぶ。

## 【授業全体の内容の概要】

「介護とは何か」さらに、「自立に向けた介護」とは何かを「生活支援」の視点から、学ぶとともに、実際に介護が行うさまざまな生活支援とその意義について理解を深める。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

- ・介護の専門職として、その人らしい生活を支援するための視点を習得する。
- ・介護福祉士としての死生観・倫理観を含めた介護観が持てるようになる。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

中央法規 最新 介護福祉士養成講座 3  
介護の基本 1

## 【単位認定方法】

- ①出欠席状況
- ②授業態度・課題提出状況
- ③定期試験の結果

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）

## 授業内容日程表

( 火 ) 後期

担当：高橋 薫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10/6	オリエンテーション	テキスト
2	10/13	介護職の労働環境	テキスト
3	10/20	介護職の労働環境	テキスト
4	10/27	職場環境について	テキスト
5	11/10	職場環境について(job café 発表)	テキスト
6	11/17	介護とは	テキスト
7	11/24	生活支援とは	テキスト
8	12/1	自立・自律	テキスト
9	12/8	試験対策	テキスト
10	12/15	試験対策	テキスト
11	12/22	前期試験	テキスト
12	1/5	看取りについて	
13	1/12	看取りについて	
14	1/19	看取りについて	
15	2/2	2年間のまとめ	



# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護過程4		授業担当者	高橋 薫 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	203 教室
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            利用者理解、または介護計画作成のためのアセスメントと、他科目で学んだ知識を専門職の視点で介護計画の立案及び展開ができる思考過程を身につける。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            介護者にとって、利用者への最善の支援とは何か、利用者が生活の中で求めるニーズとは何かなどを総合的に考えたうえで、介護過程の展開を行い実践に結びつける。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価する事が出来る。</li> <li>・ 把握すべき事実の内容を理解し、課題達成のための実践の内容を計画できる。</li> </ul> <p><b>【使用テキスト・参考文献・教材】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①中央法規 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程</li> <li>②教職員テキスト</li> </ol> <p><b>【単位認定方法】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①出欠席状況</li> <li>②授業態度・課題提出状況</li> <li>③定期試験の結果</li> </ol> <p><b>【成績評価方法・基準】</b></p> <p>授業日数の3分の2以上の出席。</p> <p>80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」            59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

## 授業内容日程表

(金) 後期

担当：高橋 薫

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	介護過程の流れの確認①	テキスト
2	10月9日	介護過程の流れの確認②	テキスト
3	10月16日	介護過程の流れの確認③	テキスト
4	10月23日	アセスメントとケアプラン	テキスト
5	10月30日	アセスメントに必要な事実のとらえ方	テキスト
6	11月6日	アセスメントの本質	テキスト
7	11月13日	介護保険制度の現状	テキスト
8	11月20日	記録の実際	テキスト
9	12月4日	ケアプランと介護サービス	テキスト
10	12月11日	事例検討①	テキスト
11	12月18日	事例検討②	テキスト
12	12月25日	事例検討③	テキスト
13	1月8日	事例検討④	テキスト
14	1月15日	振り返り	テキスト
15	1月29日	前期まとめ	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護総合演習4		授業担当者	星野 成美 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習		使用教室	203 教室	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            介護福祉士に求められる知識、技術、価値、倫理などを総合的に学習し、実習を行い、演習課題を通して「介護とは何か」を考え、自身の介護観を確立する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            実習モデルに基づき、今までの実習を振り返りながら更なる知識の向上と演習を行う上での介護職の職務のあり方を意識する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            実際の介護職員として、利用者を把握しどのような支援を提供できるか、自らの介護職としての考えを伝え、報告することができる。            介護福祉士としての知識、技術、価値、倫理などを総合的に学び、実践できる。</p> <p><b>【使用テキスト・参考文献・教材】</b>            最新 介護福祉士養成講座 10            介護総合演習・介護実習</p> <p><b>【単位認定方法】</b>            定期試験 (60点以上)            出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する</p> <p><b>【成績評価方法・基準】</b>            授業日数の3分の2以上の出席。            80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」            59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

## 授業内容日程表

(金) 後期

担当：星野 成美

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月2日	オリエンテーション・実習を振り返って	テキスト
2	10月9日	実習で学ぶ意義	テキスト
3	10月16日	事例検討①	テキスト
4	10月23日	事例検討②	テキスト
5	10月30日	事例検討③	テキスト
6	11月6日	実習先としての施設の特徴①	テキスト
7	11月13日	実習先としての施設の特徴②	テキスト
8	11月20日	実習先としての施設の特徴③	テキスト
9	11月27日	実習先としての施設の特徴④	テキスト
10	12月4日	他職種の取り組み・地域との連携①	テキスト
11	12月11日	他職種の取り組み・地域との連携②	テキスト
12	12月18日	事例検討④	テキスト
13	12月22日	まとめ①	テキスト
14	1月8日	まとめ②	テキスト
15	1月15日	試験対策	テキスト

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	介護実習Ⅱ		授業担当者	星野・高橋・高松 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・後期	時間数（単位数）	192 時間 4 単位	授業の回数	回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	教室
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>地域に密接した施設において、利用者の生活を把握し、利用者本人・家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な知識・技術を習得する事をねらいとする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>様々な利用者への個別ケアを理解し、利用者やその家族、職員とのコミュニケーションを通じ、介護技術の吸収・他職種連携や介護福祉士の役割などを理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>①多職種協働の中から介護職の役割を学び、チームケアの重要性を深める</p> <p>②対象者の生活を理解し、地域との関わり・施設の在り方や業務の役割、生活を支える支援を実践的に学ぶ</p> <p>③介護過程の展開を通じて、支援の展開手法を考え、実践的に行う為の知識を身に付ける</p> <p>【使用テキスト・参考文献・教材】</p> <p>【単位認定方法】</p> <p>実習評価点（60点以上） 出勤日数、実習態度、提出物等、総合的に評価する</p> <p>【成績評価方法・基準】</p> <p>80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」 59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）</p>					

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	国家試験特別講義 2		授業担当者	高松 浩之 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・ <u>後期</u>	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習			使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

授業を担当する教員は、介護福祉士として障害者支援施設・高齢者施設に長年勤務し、介護職として、施設利用者への知識向上のための知識や技術を身に付けてきた。

国家試験問題を繰り返し学習することにより、介護の基礎知識を身につける。

国家試験を意識し、問題演習を行っていく。

## 【授業全体の内容の概要】

過去の試験問題を学習し、基礎知識を広げ、各領域の知識習得を目指す。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

基礎知識を習得することによって、根拠を持った介護が出来るようにする。

国家資格のプロとして、より多くの知識を持つことが出来る。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

各種国家試験過去問題

介護福祉士国家試験問題

## 【単位認定方法】

定期試験 (60点以上)

出席日数、授業態度等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」(履修認定不可)

## 授業内容日程表

(月) 後期

担当：高松 浩之

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月5日	オリエンテーション、人間と社会の領域①	プリント
2	10月12日	介護の領域①	プリント
3	10月19日	こころとからだのしくみの領域①	プリント
4	10月26日	人間と社会の領域②	プリント
5	11月4日	介護の領域②	プリント
6	11月9日	こころとからだのしくみの領域②	プリント
7	11月16日	人間と社会の領域③	プリント
8	11月30日	介護の領域③	プリント
9	12月7日	こころとからだのしくみの領域③	プリント
10	12月14日	過去問題①	プリント
11	12月21日	過去問題②	プリント
12	1月4日	過去問題③	プリント
13	1月12日	振り返り①	プリント
14	1月25日	振り返り②	プリント
15	2月1日	振り返り③	プリント

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	こころとからだのしくみ3		授業担当者	武富 須賀乃 印	
配当年次・時期	2 学年 前期・ <del>後期</del>	時間数（単位数）	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義・演習・実技・実習			使用教室	203 教室

## 【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能・こころのしくみを知り、加齢によるさまざま疾患でどのような生活障害が生じるかを理解するとともに、生活障害のメカニズムを知ることにより、高齢者の生活の介護実践との関連性を理解しているか確認する。

## 【授業全体の内容の概要】

人間の基本的欲求や生命維持のしくみを理解し、身支度や移動、食事、入浴、排泄など介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解しているか確認する。

## 【授業終了時の達成課題（到達目標）】

介護サービスを提供する上で『こころとからだのしくみ』が基本であることを理解するとともに、安全確保の重要性を理解しているか確認する。

## 【使用テキスト・参考文献・教材】

新版

『こころとからだのしくみ』 中央法規

## 【単位認定方法】

実習評価点（60点以上）

出勤日数、実習態度、提出物等、総合的に評価する

## 【成績評価方法・基準】

授業日数の3分の2以上の出席。

80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」

59点以下の評価点に「D」（履修認定不可）



## 授業内容日程表

( 火 ) 後期

担当：武富 須賀乃

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	移動するための身体のしくみを学習する ①	テキスト
2	10月13日	移動するための身体のしくみを学習する ②	テキスト
3	10月20日	移動に関連したからだのしくみ ①寝返り動作 ②起居動作 ③歩行	ビデオ
4	10月27日	移動に関連したからだのしくみ 身体機能低下による影響 ①骨折 ②廃用症候群 ③褥そう	資料配布
5	11月10日	栄養素の働き、摂食・嚥下機能低下のしくみを理解する	資料配布
6	11月17日	心身機能低下が食事に及ぼす影響 ①精神機能の具体的内容 ②身体機能の具体的内容 ③食事動作に影響する要因	演 習
7	11月25日	入浴・清潔保持のしくみ ①清潔がもたらす心身への効果を理解する	テキスト
8	12月1日	清潔保持が心身機能の低下に及ぼす影響 ①おむつかぶれのメカニズム ②入浴時の留意事項	演 習
9	12月8日	排泄に必要な行為 排尿・排便のしくみ	テキスト
10	12月15日	排泄の観察 変化の気づきと対応	小テスト 演 習
11	12月22日	睡眠を引き起こすしくみを学ぶ 睡眠に関連したところとからだのしくみについて理解する	テキスト
12	1月5日	生活習慣や疾患が睡眠に及ぼす影響	資料配布・演習
13	1月12日	死を理解する 終末期のとらえ方	テキスト
14	1月19日	死の過程 医療職との連携 後期テスト出題範囲	テキスト
15	1月26日	後期テスト	

# 授 業 要 項

2020 年度

介護福祉学科

科目名	医療的ケア 演習		授業担当者	武富 須賀乃 印	
配当年次・時期	2 学年 前期 後期	時間数 (単位数)	30 時間 2 単位	授業の回数	15 回
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習		使用教室	203 教室	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            医療職との連携のもとで喀痰吸引、経管栄養の正確な知識と正確な技術を安全・適切に実施できるように習得する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            ①制度や法制度について学び、尊厳や倫理について理解する。            ②講義・演習を通してチームの一員としての医療的ケアの実施を目指す。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            ①実施の根拠が理解できる。            ②必要物品の準備ができることを前提に安全・確実に行えるように知識・技術を身につける。            ③利用者の生活に必要な支援であることを理解できる。</p> <p><b>【使用テキスト・参考文献・教材】</b>            最新 介護福祉士養成講座            『医療的ケア』 中央法規</p> <p><b>【単位認定方法】</b>            ・ 定期試験 (60点以上)            出席日数、授業態度、提出物等、総合的に評価する</p> <p><b>【成績評価方法・基準】</b>            授業日数の3分の2以上の出席。            80点以上の評価点に「A」、70～79点の評価点に「B」、60～69点の評価点に「C」            59点以下の評価点に「D」 (履修認定不可)</p>					

# 授業内容日程表

( 火 ) 前期

担当：武富 須賀乃

	日付	授 業 内 容	使用物品
1	10月6日	吸引前の準備 ①ペット・メイキング ②必要物品の準備 ※吸引準備は毎回各グループで行う	演習
2	10月13日	1 口腔内吸引 ①講師が手順を実施 ②各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
3	10月20日	2 口腔内吸引 ①講師が手順を実施 ②各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
4	10月27日	3 口腔内吸引 ①講師が手順を実施 ②各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
5	11月3日	1 鼻腔内吸引 ①講師が手順を実施 ②各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
6	11月10日	2 鼻腔内吸引 ①講師が手順を実施 ②各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
7	11月17日	3 鼻腔内吸引 ①講師が手順を実施 ②各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
8	11月24日	1 気管内吸引 ①講師が手順を実施 ②各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
9	12月1日	2 気管内吸引 ①講師が手順を実施 ②各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
10	12月8日	3 気管内吸引 ①講師が手順を実施 ②各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
11	12月15日	1 経管栄養について ①必要物品の準備 ②経管栄養の種類 ③経管栄養の対象者 ④各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
12	12月22日	2 経管栄養について ①各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
13	12月29日	3 経管栄養について ①各グループで指導者と実施者がペアになって練習	演習
14	1月5日	各個人でテキストを見ないで喀痰吸引の練習	演習
15	1月12日	実技試験	評価